

資料13 ボーリング柱状図

今回の調査ボーリングは計4箇所(No.1~4)で実施した(図4-3-1参照)。また巻末資料に「ボーリング柱状図及びコア写真」を添付した。

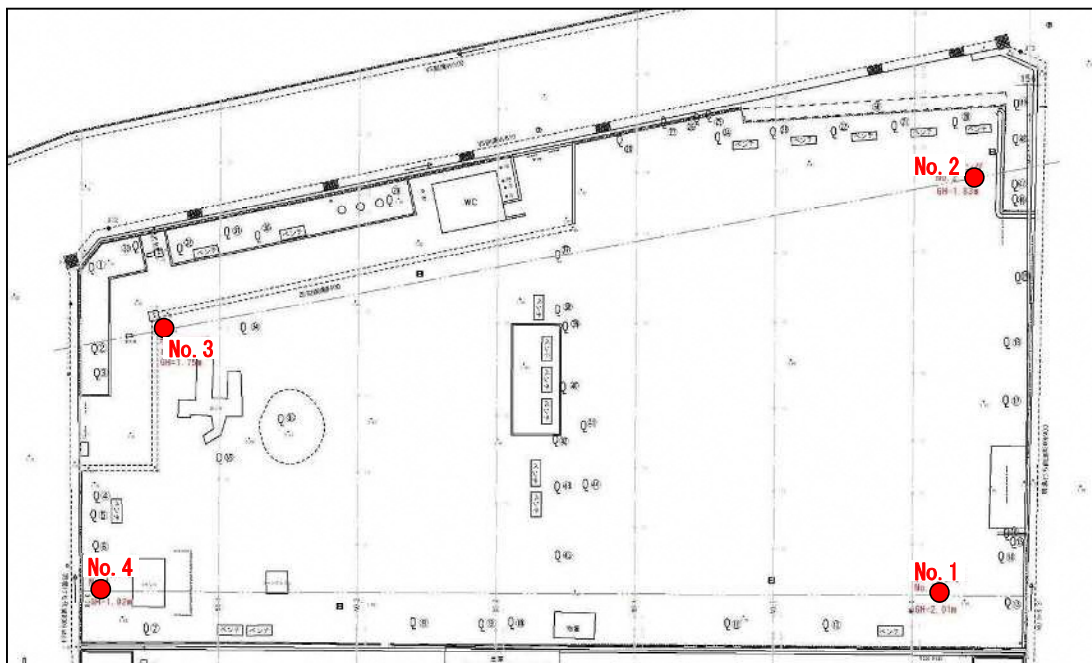


図4-3-1 ボーリング調査位置図

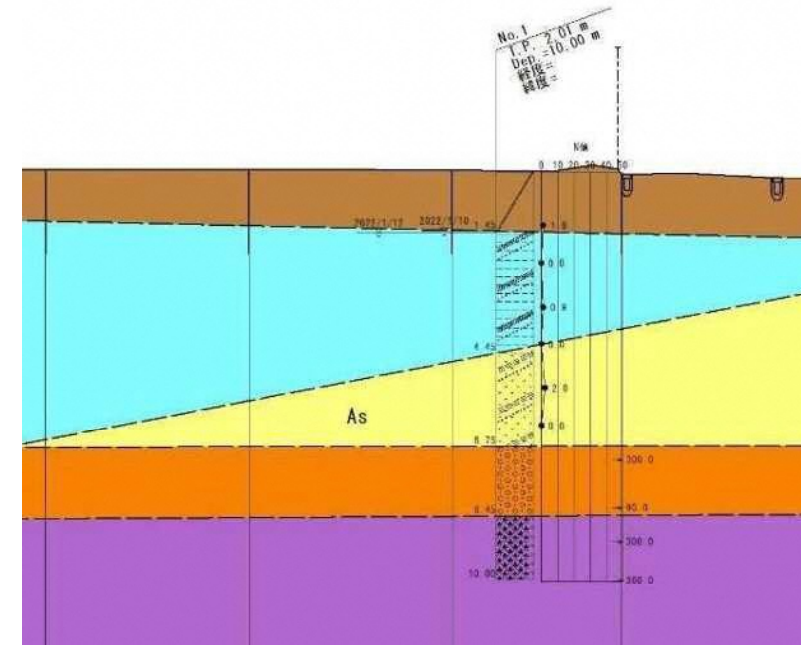
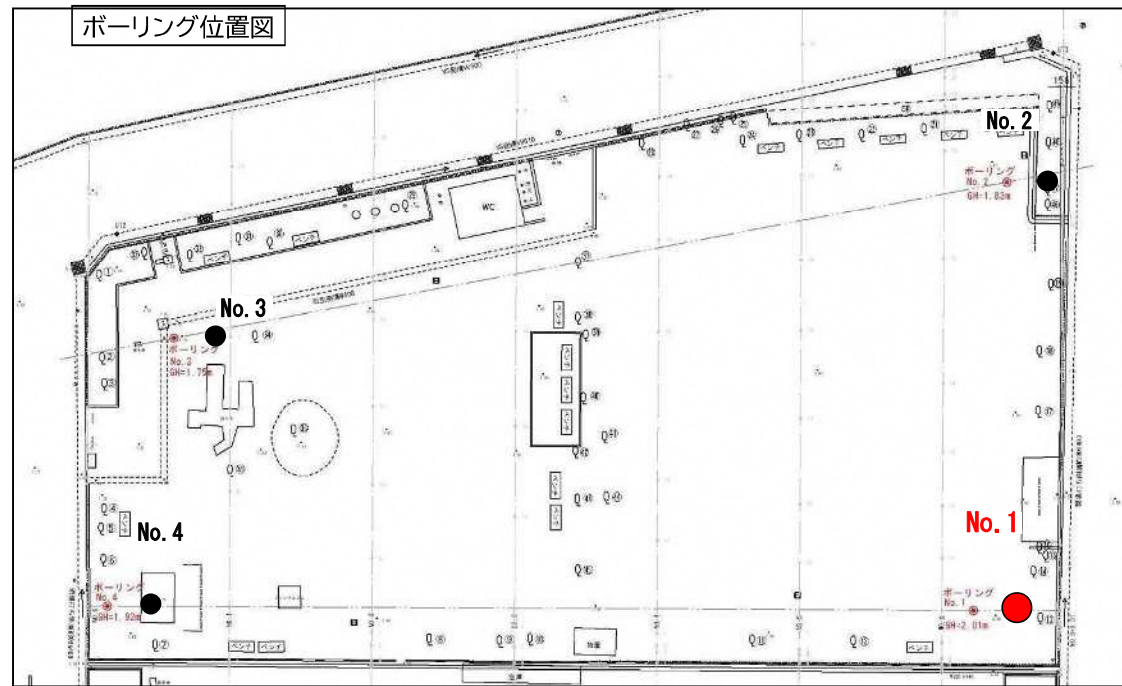
表4-3-1に示すように、ボーリングコア観察の結果、分布が確認された地層は基盤を成す凝灰角礫岩(Tb)及び風化凝灰角礫岩(wTb)とその上位を被覆する沖積層3層(粘性土:Ac、砂質土:As、玉石土:Ag)及び盛土(B)の計6層であり、各層の確認層厚は下表のとおりである。

表4-3-1 層厚及び掘削長一覧

孔番	層厚(m)						計
	盛土(B)	沖積層			風化凝灰角礫岩(wTb)	凝灰角礫岩(Tb)	
		粘性土(Ac)	砂質土(As)	玉石土(Ag)			
No.1	1.45	3.00	2.30	1.70	-	1.55	10.00
No.2	1.70	-	4.30	2.55	1.00	2.45	12.00
No.3	1.00	5.70	-	1.69	-	1.61	10.00
No.4	0.70	6.02	-	1.81	-	1.47	10.00
計	4.85	14.72	6.60	7.75	1.00	7.08	42.00

表 4-3-2 各層の地質・土質一覧表

各地層名称		地質・土質状況	代表コア写真
沖積層	盛土 (B)	<p>本層は No. 1~4 の全孔で分布が確認された。</p> <p>礫混じり砂で、中~粗砂が主体を成す。φ0.5~5cm の安山岩やレンガ片等の雑多な角礫を約 30% 含む。表層に植物根が混入する場合が多い。含水は低く、固結度は低い。</p> <p>層厚は 0.70m~1.70m で、層厚の変化がやや大きい。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 2、深度 0.50~1.00m]</p>
	粘性土 (Ac)	<p>本層は No. 1、No. 3、No. 4 の 3 孔で分布が確認された。</p> <p>極めて軟質な礫まじり砂質シルトで、含水も高い。シルトを含む細粒分が約 50~60%、細~中砂から成る砂分が約 30~40%、φ0.5~10cm の亜円礫~亜角礫分から成る礫分が約 10% を占める。また貝殻片が全体に混入する。</p> <p>層厚は No. 1 で 3.00m、No. 3 で 5.70m、No. 4 で 6.02m を示し、敷地南側 (No. 3~No. 4) で層厚が厚い。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 1、深度 2.50~3.00m]</p>
	砂質土 (As)	<p>本層は No. 1、No. 2 の 2 孔で分布が確認された。</p> <p>含水の高い礫混じりシルト質砂で、固結度が低く締りが緩い。細~中砂から成る砂分が約 40~50%、シルトを含む細粒分が約 30~40%、φ0.5~3cm の安山岩の亜円礫~亜角礫が約 20% を占める。また貝殻細片が多く混入する。</p> <p>層厚は No. 1 で 2.30m、No. 2 で 4.30m を示し、比較的層厚の変化が大きい。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 1、深度 4.50~5.00m]</p>
	玉石土 (Ag)	<p>本層は No. 1~4 の全孔で分布が確認された。</p> <p>最大 φ13cm の硬質安山岩の玉石が主体で、玉石間を φ0.5~8cm の硬質安山岩亜円礫~亜角礫と中~粗砂が充填する。玉石が約 50%、礫分が約 30%、砂分が約 20% を占める。固結度は中位~高い。</p> <p>層厚は 1.69m~2.55m を示し、粘性土 (Ac) や砂質土 (As) に比べて層厚が薄い。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 1、深度 7.10~7.60m]</p>
基盤岩	風化凝灰角礫岩 (wTb)	<p>本層は No. 2 のみで分布が確認された。</p> <p>主に短棒状コアを呈し、局所的に角礫状コアを示す。ハンマー打撃で鈍い金属音を発する~割れ易い。褐色風化が進行し、やや軟質。節理面は少ないが面の褐色化が目立つ。</p> <p>層厚は 1.00m で、風化した部分が局所的かつ薄いことを示す。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 2、深度 8.50~9.00m]</p>
	凝灰角礫岩 (Tb)	<p>本層は No. 1~4 の全孔で分布が確認された。</p> <p>全体に短棒状~棒状コアを呈する。褐色化が認められるが、概ね硬質でハンマー打撃で金属音~鈍い金属音を発する。節理面は比較的少なく、面の褐色化や部分的な褐色粘土薄層の挟みが認められる。</p> <p>確認層厚は 1.47~2.45m である。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 2、深度 11.50~12.00m]</p>



凡例	
	: 盛土 (B)
	: 沖積粘性土 (Ac)
	: 沖積砂質土 (As)
	: 沖積玉石土 (Ag)
	: 風化凝灰角礫岩 (wTb)
	: 凝灰角礫岩 (Tb)

層番号	層名	説明	試験結果
1	盛土	礫まじり砂。細～粗砂が主体で、径0.5～2cmの安山岩、レンガ片等の雑多な角礫が約30%を含む。含水低く、固結度低い。深度0.10m以下は植物根が混入。	1/10 1.45
2	礫まじり砂質シルト	シルト分が約60%、細～中砂が約30%、径0.5～10cmの兼門礫～兼角礫が約10%を占める。全体に軟弱で、径0.2～1cmの貝殻片を少量含む。含水は中位～高く、固結度は低い。	1/12 1.49
3	礫まじりシルト質砂	細～粗砂が約50%、シルト分が約30%、径0.5～2cmの兼安山岩の角礫～兼貝殻が約20%を占める。含水中位～高く、固結度は低い。全体に径0.2～3cmの貝殻片を多く含む。深度5.50m以下は礫分の割合が比較的高い。	
4	玉石土	最大径12cmの玉石を含む径1～8cmの兼門礫～兼角礫が約40%、中～粗砂が約60%を占める。玉石と礫は硬質な安山岩で、ハンマー打撃で金属音を発する。砂分から成るマトリックスの固結度は高い。	
5	凝灰角礫岩	短棒状～棒状コアを呈する。全体に褐色化が認められ、特に深度8.80m以下では節理面沿いに軟質化。径2～5cmの兼礫部と兼角礫部を占めるマトリックス部は概ね同等の硬さを有し、ハンマー打撃で鈍い金属音を発する。節理面は少ない。	



図 4-3-2 ボーリング柱状図～コア写真の対比 : No. 1

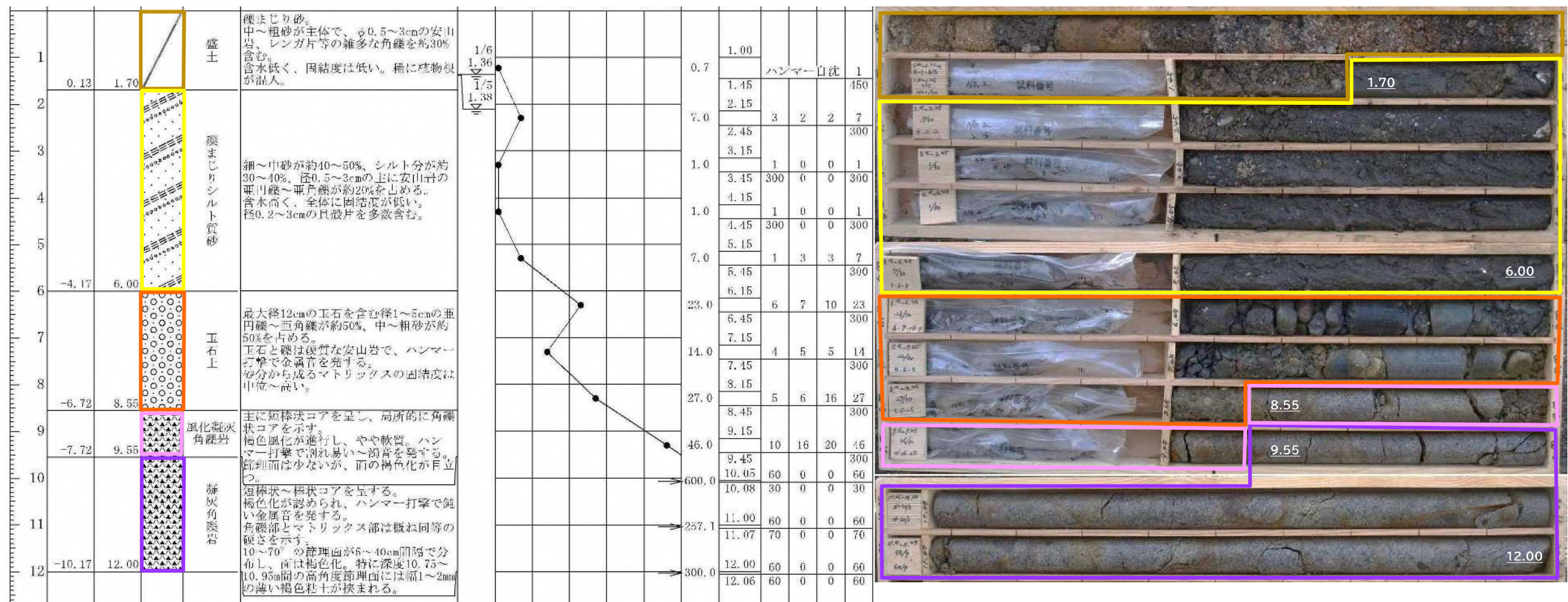
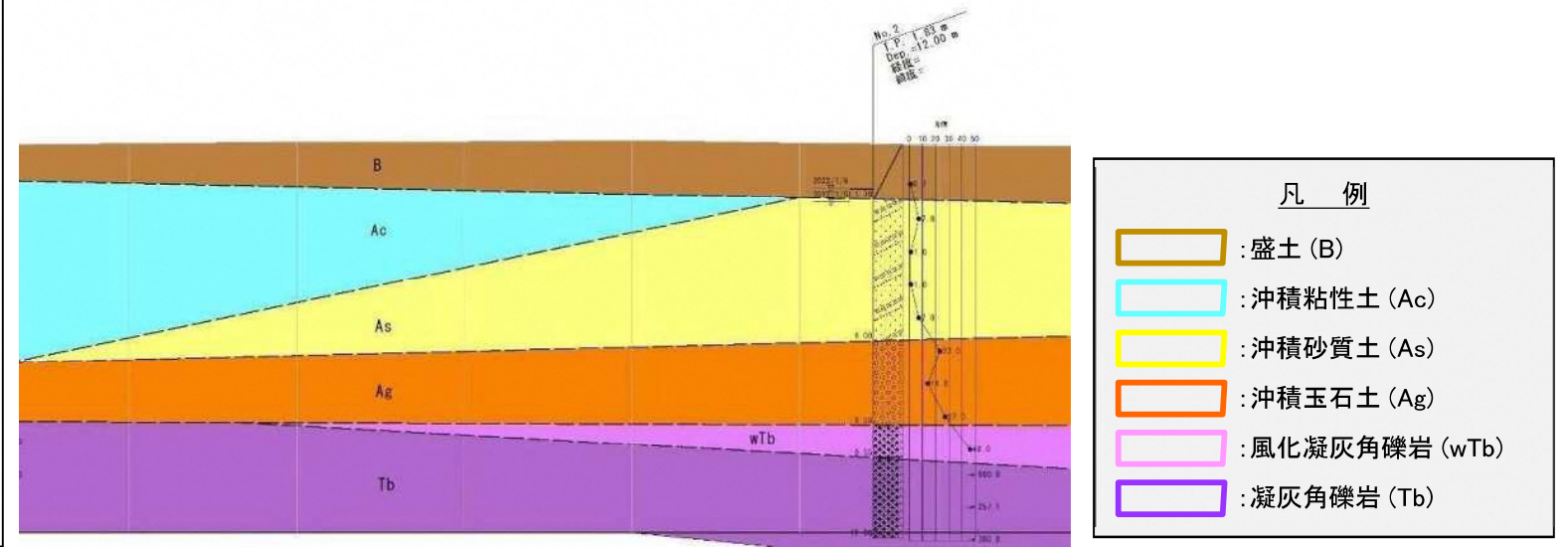
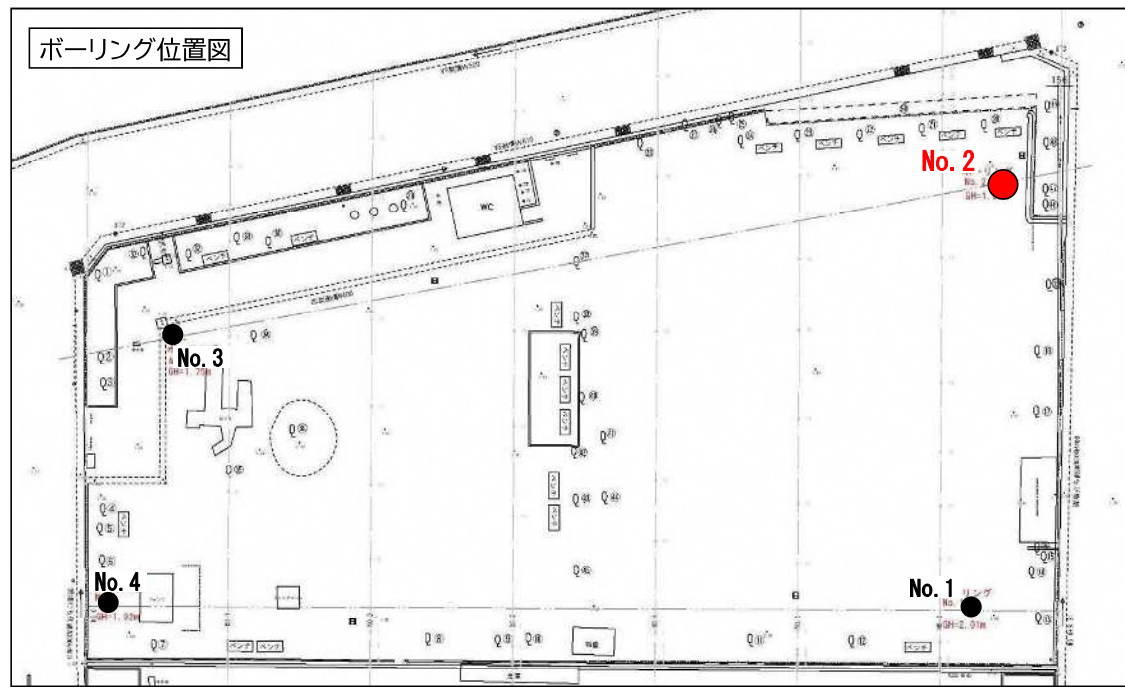
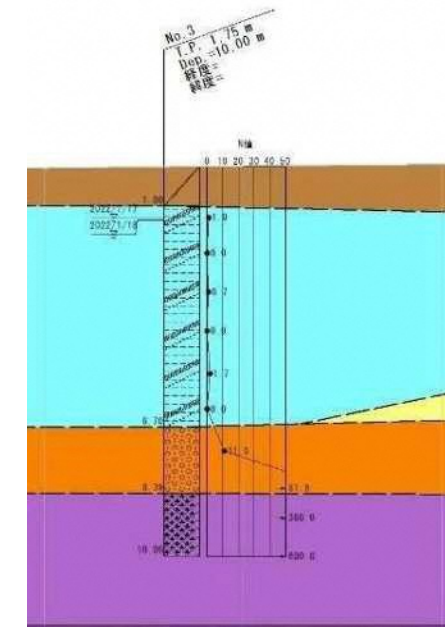
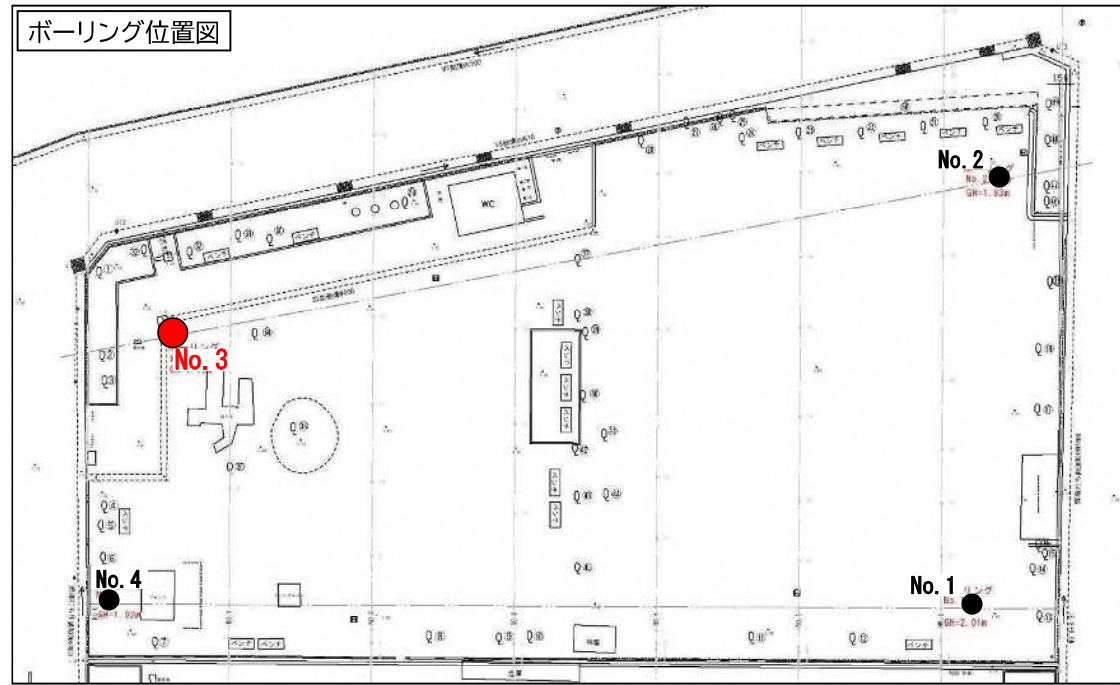


図 4-3-3 ボーリング柱状図～コア写真の対比 : No. 2



凡例	
[Orange box]	: 盛土 (B)
[Light blue box]	: 沖積粘性土 (Ac)
[Yellow box]	: 沖積砂質土 (As)
[Red box]	: 沖積玉石土 (Ag)
[Pink box]	: 風化凝灰角礫岩 (wTb)
[Purple box]	: 凝灰角礫岩 (Tb)

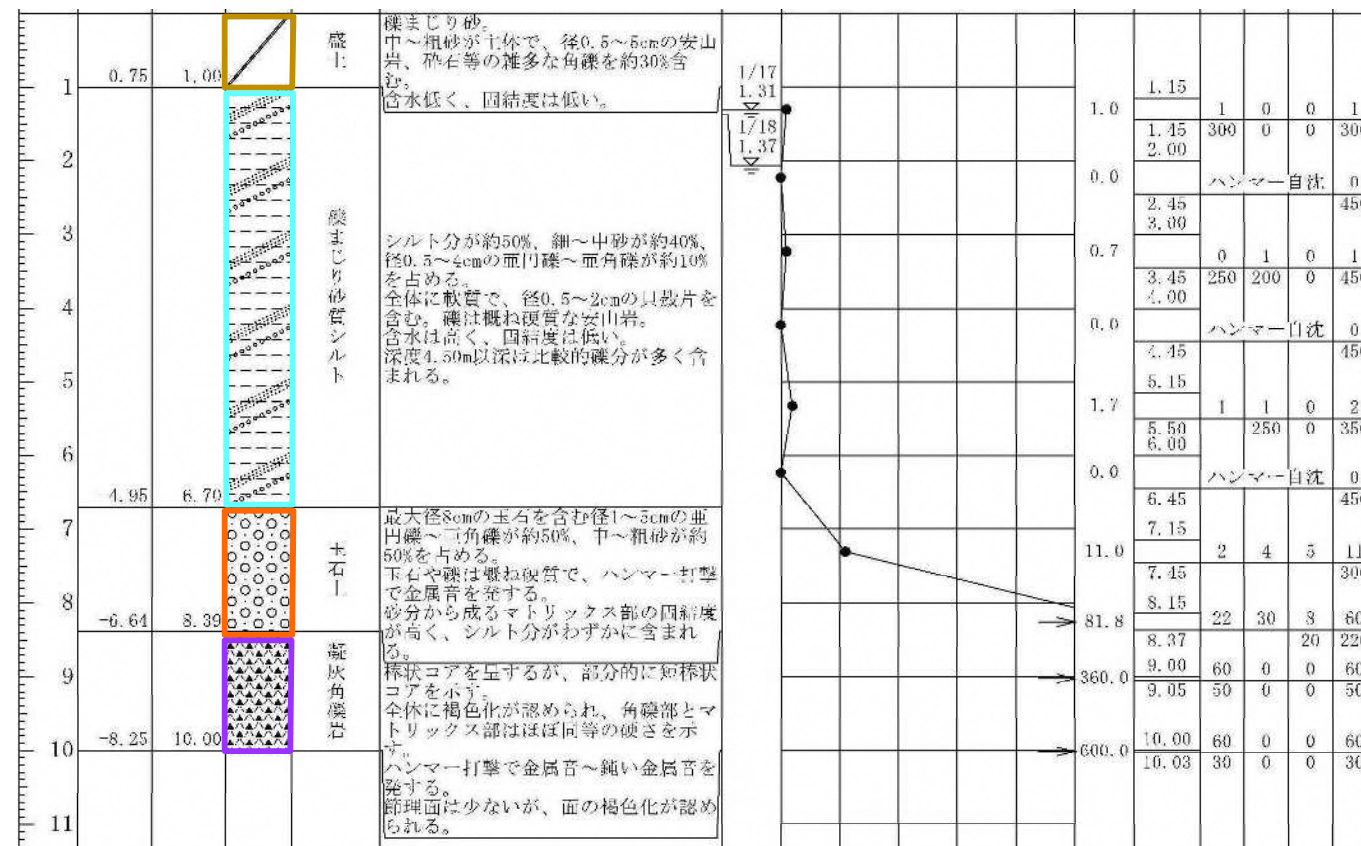


図 4-3-4 ボーリング柱状図～コア写真の対比 : No. 3

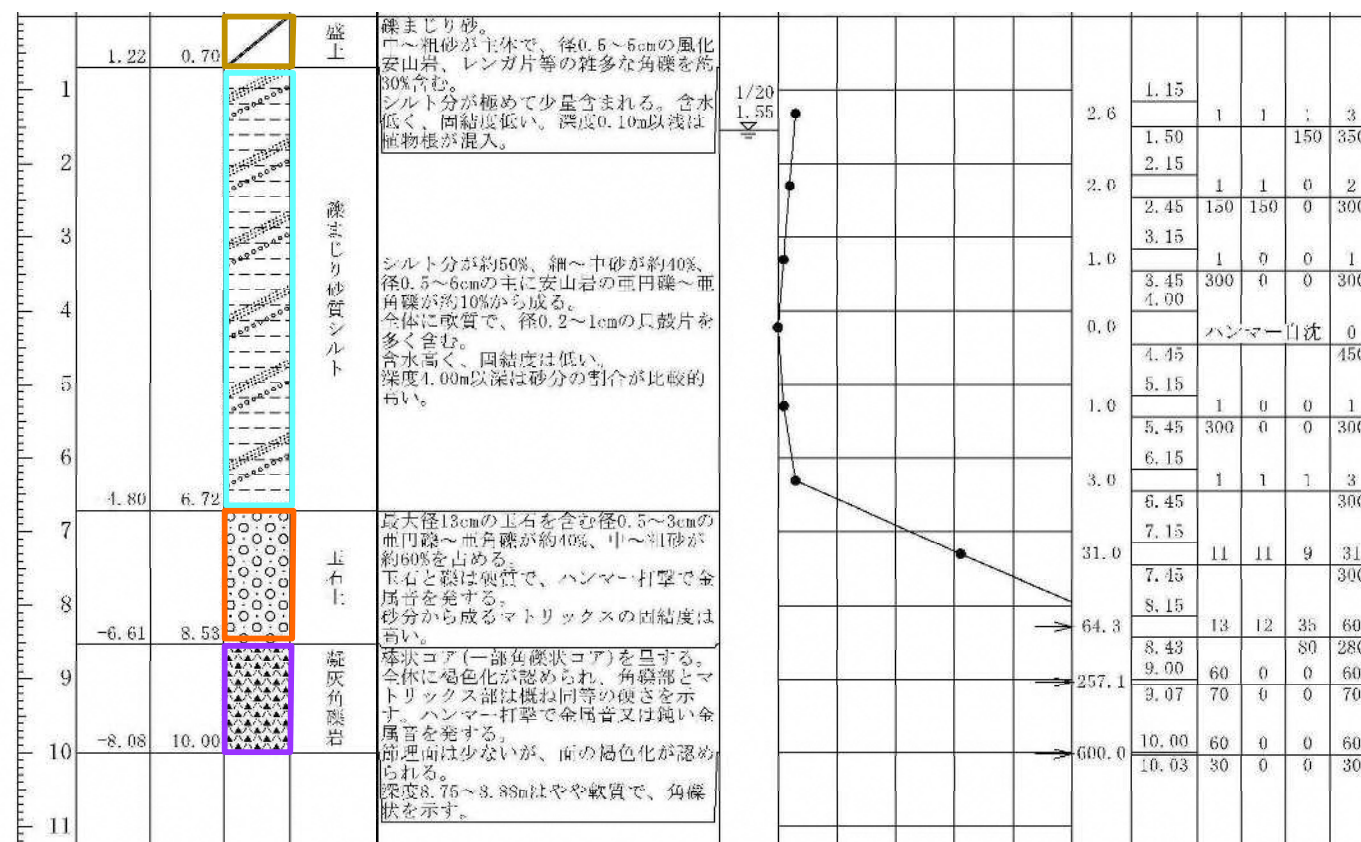
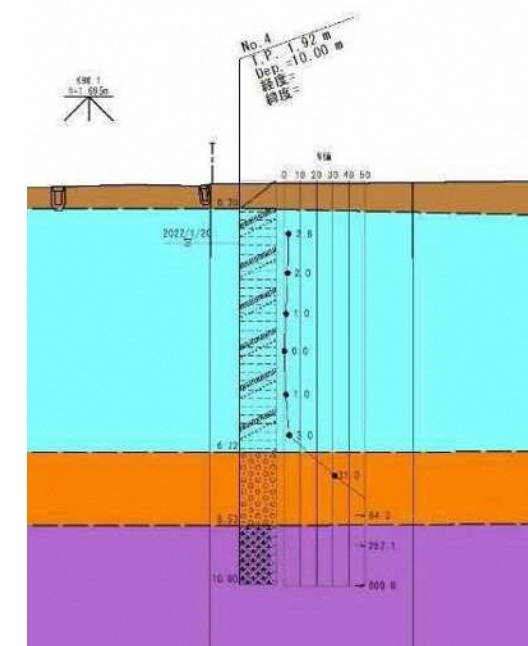
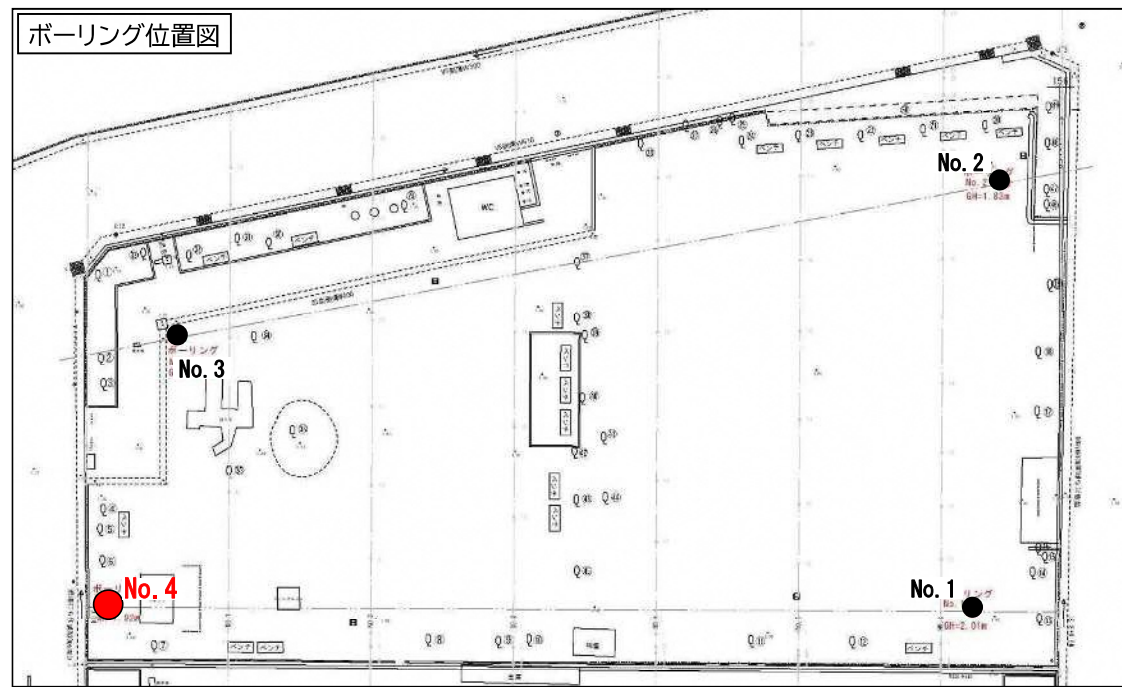


図 4-3-5 ボーリング柱状図〜コア写真の対比 : No. 4

資料14 基本設計図書

成果物	部数	備考
1. 建築（総合） 【建築（総合）基本設計図書】 ・設計説明書 ・敷地案内図 ・建物配置計画図 ・面積表及び求積図 ・住戸タイプ別配分略図 ・仕上概要表 ・配置図 ・平面図（各階） ・断面図 ・立面図（各面） ・矩計図（主要部詳細） ・外構計画図 ・色彩計画書 ・工事手順書 ・仮設計画概要書 ・全体工程表 【工事費概算書】	2 部 1 部	A 3 A 4 ファイル
2. 建築（構造） 【建築（構造）基本設計図書】 ・構造計画説明書 【工事費概算書】	2 部 1 部	A 3 A 4 ファイル
3. 電気設備 【電気設備基本設計図書】 ・電気設備・昇降機計画説明書 【工事費概算書】	2 部 1 部	A 3 A 4 ファイル
4. 機械設備 【給排水衛生設備基本設計図書】 ・給排水衛生設備計画説明書 ・空気調和設備計画説明書 【工事費概算書】	2 部 1 部	A 3 A 4 ファイル
5. 解体計画図 【解体仮設計画図】 【解体計画概要書】 【工事費概算書】	2 部 2 部 1 部	A 3 A 3 A 4 ファイル
6. その他 【透視図】	2 部	A 3（外観 2、内観 2）
7. 資料・提出図書 【事前調査結果資料】 【各種技術資料】 【リサイクル計画書】 【各種議事録】 【その他必要な図面・資料】 【CAD データ又は電子データ】	1 部 1 式 1 部 1 式 1 部 1 式	A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル CD-R 等（CAD データ（dxf、jww の全ての形式で提出）、その他（word、Excel、pdf 等） ※図面データは PDF データも提出のこと

注 1 「総合」とは建築物の意匠に関する設計並びに意匠、構造及び設備に関する設計をとりまとめる設計を、「構造」とは建築物の構造に関する設計を、「設備」とは建築物の設備に関する設計をいう。

「計画説明書」には設計主旨及び計画概要に関する記載を含む。

「全体工程表」には、実施設計、各種協議、申請及び工事期間を含む。

注 2 成果物のサイズは協議による。

注 3 部数に打合せ用資料は含まない。

資料15 実施設計図書

成果物	部数	備考
1. 建築（総合） 【意匠図】 ・建築物概要書 ・図面リスト ・仕様書 ・工事区分表 ・敷地案内図 ・配置図 ・面積表及び求積図 ・法規チェックリスト ・仕上表 ・平面図（各階） ・断面図 ・立面図（各面） ・矩計図 ・住戸平面詳細図 ・共用部平面詳細図 ・階段詳細図 ・展開図 ・天井伏図（各階） ・建具表 ・部分詳細図 ・外構図 ・サイン計画図 ・総合仮設計画図 ・その他必要な図面等 【工事手順書】 【全体工程表】 【工事費内訳明細書】 【積算数量算出書】 【積算数量調書】 【建築確認申請関係図書】	1 式 1 部 1 部 1 部 1 部 1 部 1 部	A 1 二つ折製本（2 部）、A 3（縮小版）二つ折製本（3 部）、A 3（原図）（1 部） A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 3 二つ折
2. 建築（構造） 【構造図】 ・図面リスト ・仕様書 ・構造基準図 ・土質柱状図 ・杭伏図 ・伏図（各階） ・軸組図 ・各部断面図 ・標準詳細図 ・各部詳細図 ・その他必要な図面等 【構造計算書】 【工事費内訳明細書】 【積算数量算出書】 【積算数量調書】 【建築確認申請関係図書】	1 式 1 部 1 部 1 部 1 部 1 部	A 1 二つ折製本（2 部）、A 3（縮小版）二つ折製本（3 部）、A 3（原図）（1 部） A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 3 二つ折

成果物	部数	備考
3. 電気設備 【電気設備図】 ・図面リスト ・仕様書 ・工事区分表 ・敷地案内図 ・配置図 ・構内配電線経路設備図 ・構内通信線路図 ・受変電設備図 ・電話設備図 ・幹線設備図 ・動力設備図 ・電灯・コンセント設備図 ・インターホン設備図 ・放送設備図 ・テレビ共同受信設備図 ・火災報知設備図 ・防排煙設備図 ・避雷設備図 ・昇降機設備図 ・その他必要な図面等 【各種計算書】 【工事費内訳明細書】 【積算数量算出書】 【積算数量調書】 【建築確認申請関係図書】	1 式 1 部 1 部 1 部 1 部 1 部	A 1 二つ折製本 (2 部)、A 3 (縮小版) 二つ折製本 (3 部)、A 3 (原図) (1 部) A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 3 二つ折
4. 機械設備 【機械設備図】 ・図面リスト ・仕様書 ・工事区分表 ・敷地案内図 ・配置図 ・機器表 ・空気調和設備図 ・換気設備図 ・排煙設備図 ・衛生器具設備図 ・給水設備図 ・排水設備図 ・給湯設備図 ・消火設備図 ・ガス設備図 ・屋外設備図 ・その他必要な図面等 【各種計算書】 【工事費内訳明細書】 【積算数量算出書】 【積算数量調書】 【建築確認申請関係図書】	1 式 1 部 1 部 1 部 1 部 1 部	A 1 二つ折製本 (2 部)、A 3 (縮小版) 二つ折製本 (3 部)、A 3 (原図) (1 部) A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル A 3 二つ折
5. 解体計画図 【解体仮設計画図】 【解体設計図】 【工事費内訳明細書】 【積算数量算出書】 【積算数量調書】	5 部 5 部 1 部 1 部 1 部	A 3 二つ折 A 3 二つ折 A 4 ファイル A 4 ファイル A 4 ファイル
6. 開発行為 【開発許可申請関係図書】	1 部	A 4 ファイル

成果物	部数	備考
7. その他		
【地質調査資料】	1 式	A 4 ファイル
【建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に基づく計画書】	1 部	A 4 ファイル
【リサイクル計画書】	1 部	A 4 ファイル
【近隣説明用図面】	1 部	A 4 ファイル
【議会説明用図面】	1 部	A 4 ファイル
【設計住宅性能評価申請書】	1 部	A 4 ファイル
【設計住宅性能評価書】	1 部	A 4 ファイル
【概略工事工程表】	1 部	A 4 ファイル
【什器備品リスト・カタログ】	1 部	A 4 ファイル
【交付金その他の国庫補助金申請で必要な書類】	1 部	A 4 ファイル
【その他、事業に必要となる各種申請書及び届出書の写し】	1 部	A 4 ファイル
【各種技術資料】	1 部	A 4 ファイル
【各種議事録】	1 式	A 4 ファイル
【その他必要な図面・資料】	1 部	CD-R 等 (CAD データ (dxf、jww の全ての形式で提出)、その他 (word、Excel、pdf 等))
【CAD データ又は電子データ】	1 式	※図面データは PDF データも提出のこと

注1 「総合」とは建築物の意匠に関する設計並びに意匠、構造及び設備に関する設計をとりまとめる設計を、「構造」とは建築物の構造に関する設計を、「設備」とは建築物の設備に関する設計をいう。

注2 工事費概算書は適切な工法、工期の設定により作成すること。なお、単価に関する資料（見積書、単価根拠等）を含むものとする。

注3 成果物のサイズは協議による。

注4 部数に打合せ用資料は含まない。

資料16 完成図書

提出書類	部数	備考
【竣工図（建築）】	1 式	A 1 二つ折製本（1 部）、A 3 二つ折製本（3 部）、原図（1 部）
【竣工図（電気設備）】	1 式	A 1 二つ折製本（1 部）、A 3 二つ折製本（3 部）、原図（1 部）
【竣工図（機械設備）】	1 式	A 1 二つ折製本（1 部）、A 3 二つ折製本（3 部）、原図（1 部）
【解体図】	1 式	A 3 二つ折製本（1 部）、原図（1 部）
【図面等が収録された電子媒体】	2 部	DVD-R 等（CAD データ（dxf、jww の全ての形式で提出）、pdf）
【取扱説明書】	2 部	A 4 ファイル
【交付金その他の国庫補助金申請で必要な書類】	2 部	A 4 ファイル
【工事記録写真】	2 部	適宜（電子データを含む）
【什器備品リスト】	2 部	A 4 ファイル
【什器備品カタログ】	2 部	適宜
【竣工写真】	2 部	適宜（電子データも含む）※外観、主要室等をプロカメラマンにより撮影する。
【保証書（原本）】	1 部	適宜
【事業に必要となる各種申請書および届出書の写し】	1 部	1 部
【その他必要な図面・資料】	1 部	1 部

注1 竣工写真の著作権等については、次のとおりとすること。

- (ア) 事業者は県による竣工写真の使用が、第三者の有する著作権を侵害するものでないことを県に対して保証する。事業者は、かかる竣工写真が第三者の有する著作権等を侵害し、第三者に対して損害の賠償を行い、または必要な措置を講じなければならないときは、事業者がその賠償額を負担し、又は必要な措置を講ずること。
- (イ) 竣工写真は、県が行う事務並びに県が認めた公的機関の広報等に、無償で使用することができるものとする。この場合において、著作権名を表示しないことができるものとする。
- (ウ) 事業者は、あらかじめ県の承諾を受けた場合を除き、竣工写真が公表されないようにし、かつ、竣工写真が県の承諾しない第三者に閲覧、複写又は譲渡されないようにすること。

注2 成果物のサイズは協議による。

注3 部数に打合せ用資料は含まない。

資料 17 住宅性能評価の等級

表示すべき事項	表示方法	説明する事項
1. 構造の安定に関すること		
1-1：耐震等級 (構造躯体の倒壊等防止)	評価方法基準による。	等級 1
1-2：耐震等級 (構造躯体の損傷防止)	評価方法基準による。	等級 1
1-3：その他 (地震に対する構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	評価方法基準による。	— (該当する場合) 免震建築物であること及び免震建築物の維持異管理に関して基本的な事項
1-4：耐風等級 (構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	評価方法基準による。	等級 1
1-5：耐積雪等級 (構造躯体の棟階防止及び損傷防止) (対象区域外)	評価方法基準による。	—
1-6：地盤又は杭の許容支持力等級及びその設定方法	地盤の許容応力度又は杭の許容支持力及び地盤調査の方法その他それらの設定の根拠となった方法を明示する。	地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法
1-7：基礎の構造方式及び形式等	直接基礎にあっては基礎の構造方法及び形式を、杭基礎にあっては杭種、杭径及び杭長を明示する。	基礎の構造方法及び形式等
2. 火災時の安全に関すること		
2-1：感知警報装置設置等級 (自住戸火災時)	評価方法基準による。	等級 1 特定共同住宅等における必要とされる防災性能を有する消防の用に供給する設備等に関する省令（総務省令第40号平成17年3月25日）により確保される水準
2-2：感知警報装置設置等級 (他住戸等火災時)	評価方法基準による。	等級 1 特定共同住宅等における必要とされる防災性能を有する消防の用に供給する設備等に関する省令（総務省令第40号平成17年3月25日）により確保される水準
2-3：避難安全対策 (他住戸等火災時・共用廊下)	評価方法基準による。	等級 1
2-4：脱出対策 (火災時)	通常の歩行経路が使用できない場合の緊急的な脱出のための対策を明示する。	直通階段又は隣戸に通ずるバルコニーや避難器具等
2-5：耐火等級 (延焼のおそれのある部分 (開口部))	評価方法基準による。	等級 1
2-6：耐火等級 (延焼のおそれのある部分 (開口部以外))	評価方法基準による。	等級 1
2-7：耐火等級 (界壁及び界床)	評価方法基準による。	等級 1

表示すべき事項	表示方法	説明する事項
3. 劣化の軽減に関すること		
3-1: 劣化対策等級 (構造躯体等)	評価方法基準による。	等級 3
4. 維持管理への配慮に関すること		
4-1: 維持管理対策等級 (専用配管)	評価方法基準による。	等級 2
4-2: 維持管理対策等級 (共用配管)	評価方法基準による。	等級 2
4-3: 更新対策 (共用排水管)	評価方法基準による。	・更新対策 等級 2 ・共用排水縦管の位置
4-4: 更新対策 (住宅専用部)	空家改修工事や設備機能更新時のコスト縮減に配慮した内容	住宅専用部の空間の高さ、間取り変更の障害になるものの有無を表示
5. 温熱環境・エネルギー消費量に関すること		
5-1: 断熱等性能等級	評価方法基準による。	等級 4 = ZEH-M Oriented を満足
5-2: 一次エネルギー消費量等級	評価方法基準による。	等級 5 = ZEH-M Oriented を満足 (と判断)
6. 空気環境に関する事		
6-1: ホルムアルデヒド対策 (内装及び天井裏等)	評価方法基準による。	等級 3
6-2: 換気対策	室内空気中の汚染物質及び湿気を屋外に除去するため必要な換気対策を明記する。	換気対策
6-3: 室内空気中の化学物質の濃度等	室内空気中の汚染物質及び湿気を屋外に除去するため必要な局所換気対策を明記する。	室内空気中の化学物質の濃度等
7. 光・視環境に関すること		
7-1: 単純開口率	単純開口率を明示する。	単純開口率
7-2: 方位別開口比	方位別開口比を明示する。	方位別開口比
8. 音環境に関すること		
8-1: 重量床衝撃音対策 (選択項目)	評価方法基準による。	等級 2
8-2: 軽量床衝撃音対策 (選択項目)	評価方法基準による。	— (表示対象としない)
8-3: 透過損失等級 (選択項目)	評価方法基準による。	等級 1
8-4: 透過損失等級 (外壁開口部) (選択項目)	評価方法基準による。	等級 2
9. 高齢者等への配慮に関すること		
9-1: 高齢者等の配慮対策等級 (専用部分)	評価方法基準による。	等級 3
9-2: 高齢者等の配慮対策等級 (共用部分)	評価方法基準による。	等級 3
10. 防犯に関すること		
10-1: 開口部の侵入防止対策	開口部区分に応じた侵入防止対策を明示する。	開口部の進入対策